

新技術・情報名	ソルガム栽培における麦稈すき込みと施肥法	
実施場所	三重県農業技術センター畜産部	分類 ※ ②

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

乾燥畑において、冬作小麦との輪作体系でソルガムを栽培する場合、麦稈をすき込んだ時は元肥重量の施肥法で、施肥量は標準（三重県飼料作物科種基準）の5割増し程度で安定した収量が期待できる。

2) 技術・情報の適用効果

冬作小麦収穫後には梅雨に入ったため、麦稈をすき込んで、早くソルガムを播種しなければ高収が期待できず、一方、生育初期のチッソ飢餓が問題となる。ソルガムの播種期が6月中旬から7月の場合、このような施肥法でソルガムの乾物収量が高収となる。

3) 適用範囲

集団転作で冬作小麦を栽培し、コンバイン等で麦稈が7cm程度に切断されている場合、これをロータリ耕ですき込む場合に適用される。このため、地域的にはかなり限定される。

4) 普及指導上の留意点

冬作小麦を収穫後、天候が良ければ、でき子だけ早く上記の処理を行なって、ソルガムを播種する。ソルガムの播種期が遅れると高収が期待できず。

2. 具体的データ

表1. 各処理の耕種法

項目	慣行区	試験区(元肥重量施肥)
肥料と施肥量	塩化リン42号 70kg/10a	塩化リン42号 100kg/10a
施肥法	ロータリ耕前に全面施肥	ロータリ耕前に全面施肥
土壌改良材	投入せず	マグカル100kg/10a
麦稈すき込みと切断長	すき込み量 500kg/10a (7cm)	すき込み量 500kg/10a (7cm)

表2. 各処理の生育・収量

年次	区別	品種	播種期	収穫期	ステージ	草丈 cm	生収量 kg/10a	乾物収量 kg/10a
58年	慣行	スイートソルゴ	7月25日	10月11日	乳熟期	267	5550	1116
	慣行	スズホ	"	"	糊熟期	235	4760	1166
	試験	スズホ	"	"	"	236	6250	1706
59年	慣行	ハイブリッドソルゴ	7月4日	10月1日	稔熟前期	182	3880	860
	慣行	スズホ	"	"	黄熟期	205	3810	1160
	試験	スズホ	"	"	"	246	5000	1700

注) スイートソルゴはソルゴ型, スズホは兼用型

3. その他特記事項

「乾燥畑における粗飼料の機械化周年生産技術体系の確立」p57~60, 総合助成